

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ザ・イエローハウス		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職が多数在籍し、子どもやグループに合わせて活動を決定していること。</li> <li>・どのグループも同じ活動をするのではなく、そのグループや子どもの好きなことに合わせて活動内容を決定していること。</li> </ul>	<p>毎クラス前後に打ち合わせや振り返りの時間をもち、それぞれ専門性を活かしながら密に情報連携を行うことで、よりよい支援につながるよう意識している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き職員同士のコミュニケーションを大切にしている。</li> <li>・専門性の質を保つことができるように、職員の研修受講や学会への参加などをしやすい環境作りを心がけていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに対して1対1で職員を配置し、担当制を設けていることで継続的に担当児を見ることができていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員配置数を十分に確保しているため、支援中に別室での相談に応じることができる環境を整えている。</li> <li>・多言語対応しているため、海外にルーツを持つ家族の支援にも力を入れている。</li> <li>・学校での支援や、放課後等デイサービスの情報についての説明会を開催している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の懇談会の頻度を増やしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識を持った職員が、保護者からの相談に応じることができること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回1時間という支援の特性上、保育園や幼稚園との交流が難しい。</li> <li>・利用者のプライバシーへの配慮のため、利用者を含めた地域との交流は慎重におこなうようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ推進のための交流機会の保証であると考えているため、在籍園との情報共有や、在籍園への訪問における助言などを通して、インクルーシブな社会を目指している。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で他の子どもと活動する機会がないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回1時間という支援の特性上、保育園や幼稚園との交流が難しい。</li> <li>・利用者のプライバシーへの配慮のため、利用者を含めた地域との交流は慎重におこなうようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への詳細な聞き取りを通して助言していくとともに、必要に応じて医療機関や専門職への評価などにつなげていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事場面の支援ができないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回1時間という支援の特性上、食事やおやつを提供がない。</li> </ul>	
3			

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ザ・イエローハウス				公表日	2025年 3月 15日		利用児童数	60名		回収数	43名	
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応					
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	41	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人程で1クラスなので。</li> <li>・運動や個別活動など有効的に確保されていると思う。</li> <li>・適度でよい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、基準を満たしたスペースを確保しています。</li> </ul>				
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	43				<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1で手厚いと感じます（グループレッスンなのに）。</li> <li>・1人1人に職員の方がついてくれて安心できる。</li> <li>・担当以外の先生にも見守ってもらっているという印象です。</li> <li>・多いと思うくらい手厚いです。ありがとうございます。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所は、基準を超える人員配置と専門職を配置することで、各種加算を算定しています。</li> </ul>					
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	42			1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードや写真などでわかりやすく配慮されていると思う。</li> </ul>							
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	42	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を見渡せ、汚れてもすぐ拭く等、快適な空間です。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝やケース後には掃除の時間を設け、清潔な環境であることを心がけています。</li> </ul>					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	43				<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいことがあれば、その都度先生とやり方を相談しています。</li> <li>・声掛けや遊びが工夫されています。</li> <li>・親も気付かぬ子どもの特性に気づきアドバイスをしてくれて助かる。</li> <li>・プロの声掛け、対応がいつも勉強になります。</li> </ul>						
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	42			1							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	43										
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	43										
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	43										
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	43				<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回色々工夫しており子どもも楽しんでいる。</li> <li>・毎回違う活動、新しい取り組み、季節ごとの制作など、ありがとうございます。</li> </ul>						
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	5	8	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に、地域の子たちと関わりたいとは思わないのでなくて大丈夫です。</li> <li>・保育所等（通園先）との連携がもう少し取れるといいなと思います。</li> <li>・機会はあるのだろうか利用したことがなく、また今のところその必要性がないので「わからない」。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所の活動上、そのような機会はありますが、お子さんが在籍している園がそのような機会となっていることがあります。在籍園がないお子さんに関しては、ご希望によって様々な交流の場を提供しています。</li> </ul>				
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	43											
13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	43											
14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	35	5		3			<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が登壇する育児に関するイベントのお知らせを掲載し、数名の保護者に参加いただきました。</li> </ul>					
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	43				<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても親身になって聞いていただき、的確なアドバイスをしてくれる。</li> </ul>							
16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	40	2		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても親身になって聞いていただき、的確なアドバイスをしてくれる。</li> <li>・本人だけでなく親の成長の手助けもしてくれています。</li> </ul>							

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	43				<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの着ている服や髪、アイテムなど目敏くチェックしてほめてくださり、「カッコいいね」「すきなの?」など共感的に接して下さりいつもすごい!と思っています。子だけでなく親の服とかも見てくださって…みなさん優しいです。いつもありがとうございます。</li> <li>・とても親身になって聞いていただき、的確なアドバイスをしてくれる。</li> <li>・前回の本人の様子を次回にすごく活かして活動内容を決めてくれている印象です。</li> </ul>		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	15	1	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだい同士は難しそう。</li> <li>・数は少ないかもしれませんが、時間がない中聞いていただいてありがたいです。</li> <li>・中々難しいかもしれませんが、他の曜日の保護者さんとの交流もできたら良いと思う。</li> <li>・特に必要ないと思います。きょうだい同士はないが、保護者同士は交流できる場があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士で懇談できる場や、就学・放課後の過ごし方についてなどを一緒に考える機会を提供しています。</li> <li>・きょうだい同士の交流の機会はありませんが、きょうだいに関する相談をお受けし、適宜情報提供や適切な支援へ繋いでいます。</li> </ul>	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	42				1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談しやすく、すぐに適切なアドバイスをいただいていると感じます。</li> <li>・相談をした際迅速かつ適切に対応してもらった。</li> </ul>	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	43						
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35	4			4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSではないがきいろいおうち便りでお知らせを確認できています。</li> <li>・公式LINEを作っていただけといういなと思っています。お休みや少し聞きたいことをあまり時間を割くことなくやり取りできるので助かります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『きいろいおうち便り』にて様々な情報を発信しています。</li> <li>・自己評価の結果はホームページに掲載しています。</li> </ul>
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	43						
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	42				1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルはファイリングをして下駄箱の上に設置し、いつでもご覧いただけるようにしております。</li> </ul>
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	39	3			1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループで年に2回、災害を想定した避難訓練を実施しています。今後も実施する予定ですので、ご協力よろしくお願いたします。</li> </ul>
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	41	1			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	39				4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故が起きたことがないので。</li> </ul>	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	43					<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても楽しく通っています。保育園のお友達にも自慢しているようです。</li> <li>・毎週楽しみにしています。</li> </ul>	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	43					<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は担当の先生とのコミュニケーションが多かったですが、慣れてきたら他の先生やお友達とも少しずつ交流でき、子供も通所を楽しみにしています。</li> <li>・毎週通所をととても楽しみにしています。</li> <li>・イエローハウスに行くのが1週間のモチベーションになっています。</li> <li>・お兄さんになってもずっとイエローハウスに通いたいそうです!</li> </ul>	
	29	事業所の支援に満足していますか。	43					<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧なご支援ありがとうございます。ここに通わせることができてよかったなと思っています。</li> <li>・事業所の支援にはとても満足しており、親子共々退所までもう少しなのでとても淋しいです(泣)</li> <li>・担当の先生が丁寧で子どものことをよく分かって指導いただけるので助かっています。</li> <li>・もっともっと通いたいです。小学生になっても通いたい。</li> <li>・親子共々イエローハウスが大好きです!いつもありがとうございます…!</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27~29の質問に、「◎」や「はなまる」をたくさんいただきました。ありがとうございます。当事業所では、お子さんの「楽しい」という気持ちを大切にしています。今後も、お子さんが自分のままに楽しめる場所を提供できるよう、職員一同努力してまいります。</li> </ul>

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ザ・イエローハウス		公表日		2025年 3月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14		・法令を遵守している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14		・基準以上の職員を配置している。 ・基本的には1対1の支援を心がけており、子どもが安心して利用できる人的環境を整えている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14		・毎朝活動前、必要に応じて活動の合間に清掃を行っている。 ・毎日掃除を行っている。 ・毎朝清掃し、状況によってはグループ終了後にも清掃や消毒をしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	1	・子どもが安心して過ごせることを優先的に捉え対応している。 ・相談室でクールダウンができる。 ・状況に応じて努力しているがスペース的に無理がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14		・個別支援計画の会議に職員が参加している。 ・毎活動後にグループ職員で振り返りを行っている。 ・振り返りの時間を公式に設けることになり、より話しやすくなった。 ・毎回支援前後で話し合いをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		・年2回ヒアリングが実施され、それ以外にも相談の機会が確保されている。 ・年2回以上の1on1のミーティングを設けている。 ・年に2度ヒアリングで意見を伝える機会があり、その都度よいやり方を取り入れるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	9	・今はまだ行っていない。	・現在第三者評価は行っていないが、定期的にコンサルタントに運営について助言をもらい、業務改善に繋げている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14		・ニーズによっては発達検査を実施し、子どもの状態を客観的に捉えた上で計画を立てている。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の職員で作成している。</li> <li>・支援計画会議が行われ、複数の職員で内容の検討が行われている。</li> <li>・児発管および担当者で計画を立て、グループの職員で会議を開催して修正している。</li> <li>・同じグループの職員で意見交換をしたうえで計画を作成している。</li> <li>・グループの職員も含め、計画会議をし意見を出し合いながら作成している。</li> <li>・担当以外の子どもに対しても職員の意識が向いていると思う。</li> </ul>	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時に新版K式発達検査を使用し確認している。</li> <li>・希望に応じて新版K式発達検査を活用している。</li> </ul>	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回グループの職員全員で活動を考えている。</li> <li>・毎回チームで立案と振り返りを行い、子どもの状況に応じてプログラムを立てている。</li> <li>・毎回振り返りを行い、子どもの状況に合わせたプログラムについて検討している。</li> <li>・毎回子どもの状況に合わせて活動を考えている。</li> <li>・子どもの特性に合わせた内容を話し合っている。</li> </ul>	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度繰り返し取り組むことが有効な場合もあり、子どもに合わせて工夫している。</li> <li>・子どもやグループに合わせて毎回の活動が組まれている。</li> <li>・固定化した方が良いグループについては一定期間繰り返すことがある。</li> <li>・子どもの状況に合わせているため、同じプログラムになることもあるが、固定化はしていない。</li> <li>・繰り返し同じ課題を行うことで安心して取り組むことができるお子さんもいるので、同じことをやっているように見えても固定ではない。繰り返すことで発展していくことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ活動を繰り返すことが有効なお子さんもいるため、その場合は、活動を繰り返す目的を保護者様に丁寧に説明していく。</li> </ul>
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回打ち合わせ、連携をとっている。</li> <li>・職員間での連携は支援に活かされている。</li> </ul>	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回行っている。</li> </ul>	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の振り返りを行うことで職員間で子どもの状態を確認し、支援の方向性も検討し必要があれば計画の見直しを行うことができる。</li> <li>・必ず半年ごとに見直しし、更新している。</li> </ul>	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者か児発管が参加。</li> </ul>	

関係機関 や保護者との 連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて情報提供書を作成し、連携がとりやすいようにしている。</li> <li>・信頼できる医療機関を保護者に勧めた時は、医療機関宛てに情報提供書を作成している。</li> </ul>	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて訪問や電話で連携している。</li> <li>・保育園や幼稚園と情報を共有しながらよりよい環境づくりに努めている。必要に応じて管理者や児発管が園に赴いている。</li> </ul>	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生には、「就学へ向けて」というまとめと、学校生活において必要になってくると予想される配慮について文章を作成し、お渡ししている。</li> <li>・最終モニタリングで就学へ向けて改めてアセスメントすることで、次のライフステージにつなげられていると思う。</li> <li>・情報提供書や引継ぎ会への参加、計画で「就学に向けて」の項目を設定している。</li> <li>・年長児には終了時に就学に向けてのまとめを作成してお渡ししている。学校へもそのまま渡していただける内容としている。</li> </ul>	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会参加にあたり有休が付与される。</li> </ul>	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターの職員が見学にいらっしゃり、情報共有や支援へのフィードバックをいただいた。</li> <li>・自治体の事業所支援を積極的に活用している。</li> </ul>	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自所属している園で交流できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の特性上、そのような機会を設けていないが、各自の所属園がそのような機会となっている。</li> </ul>
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回フィードバックをする際に日々の様子を聞いている。</li> <li>・毎回のフィードバックの時間を大切にしている。</li> <li>・活動の後に毎回保護者と本日の振り返りを行い、日常の様子と照らし合わせている。</li> </ul>	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントプログラムの知識を活かしてフィードバック時にお伝えできるよう心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援Ⅱの範囲内で、グループの保護者同士の懇談や、テーマにあわせたペアレントトレーニングの機会を提供している。</li> </ul>
保護者	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回のフィードバックや個別面談の中で家族への支援を行っている。</li> </ul>	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだい同士で交流する機会は設けていないが、自然発生的に交流する時間になっていることがある。</li> </ul>	

への説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14			・きいろいおうち便りにて情報発信を行っている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			・障害有無だけでなく、出身国にも配慮し情報を多言語でお伝えしている。 ・海外ルーツの保護者に対し、やさしい日本語を使用する、英語話者が対応する、翻訳ツールを使用するなど行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	9	・お正月遊びにきょうだいを招くなどした。 ・地域住民を招待することはしていないが、地域の福祉職員や学生などの見学受け入れを積極的に行っている。また、管理者が行政や親の会などで講演会を行うなどして、地域との関わりを密にしている。	・事業所の特性や、利用者の個人情報等の問題があり、そのような機会は設けていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14			・研修日を設けて行っている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14			・年2回の避難訓練を全クラスで行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	2	・小麦粉粘土は米粉に変えて対応している。 ・食事の提供はないが、活動で使用する素材について、アレルギーの有無を聞き取り、対応している。 ・食事の提供は行っていないが、アレルギー全般について保護者にお聞きし対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14			・小さなヒヤリハットでもチームで共有し、未然・再発防止に努めている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14				